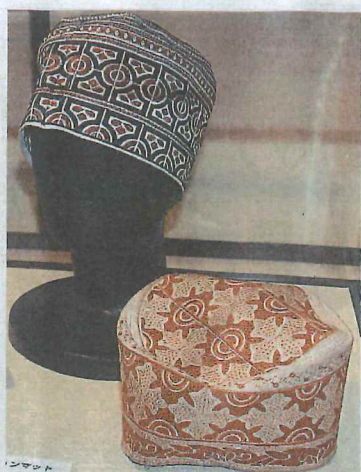


アフリカの「装い」鮮やか



親指ピアノ

【写真左】タンザニアの親指ピアノ。小さな箱に金属の棒(鍵盤)を取り付け、弾くと柔らかな響きが広がる【同右】イスラム教徒男性の帽子。東アフリカで「コフィア」と呼ばれる。色とりどりの刺しゅうが丁寧に施されている



イスラム教徒男性の帽子



アフリカの華やかなアクセサリ。素材は木や骨、象牙、動物の皮や天然素材、ソダの殻、タチョウの卵の殻や木の葉などの天然素材、ソダの殻を溶かして固めた再生素材などでできたものもある。



アフリカの国々の民族衣装。人びとは宗教儀式や結婚式にこのような正装で出掛けるという

弘大で衣装や楽器展示 来月20日まで

弘前

アフリカの生活や文化の魅力を紹介する企画展「アフリカの装い」が、弘前市の弘前大学資料館で7月20日まで開催されている。世界との交流の中で、自由に花開いたアフリカの「装い」の鮮やかさが来場者の目を引いている。

展示品は、弘前大のアフリカ研究者5人がこれまで買い集めたもの。オレンジや青、緑などが美しい衣装、身近な材料で作ったアクセサリ、手作り感が伝わる楽器などが多数並ぶ。

企画した同大人文社会科学部の杉山祐子教授、近藤史准教授によると、アフリカのおしゃれやアートは、古くからのヨーロッパやイスラム世界とのつながりの表れであり、近代のグローバル化の影響も受けているという。

杉山教授(近藤准教授はアフリカと世界、日本はつながっており、アフリカが身近にあることを感じてほしい)と語った。開館は午前10時〜午後4時で、日曜・祝日は休館。無料。(菊谷 豊)

※この記事は東奥日報社提供です。

この画像は、当該ページに限って東奥日報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先]

弘前大学資料館 jm3432@hirosaki-u.ac.jp